

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成20年1月(2008年) No.505

あけまして おめでとうございます 今年も元気で明るい年でありますように

会長 合原一夫

昨年はわがOMCにおいては、従来からの4対3映像が急減いたしましたし、3分の2以上の方がハイビジョンに取り組まれたという、歴史的な変革の年でありました。それにも増して会員諸氏が皆お元気でビデオ作品づくりを楽しんでおられる姿が何よりでした。また、作品の内容的にも発表会来場者の声を聞いて、明るい映写の話題と共に大変好評でした。

さて今年は区切りのいい平成20年、世の中いろいろ変わるかも知れませんが、ビデオを核として皆さん大いに楽しみ、良い作品を作っていこうではありませんか。私も今年は遅ればせながら、遂にとうとう、とうとうハイビジョン元年となりそうです。身体の方は若い頃のようにはいきませんが、ボチボチながら頑張りますので、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

春の撮影会は3月15(土)16日(日)予定 撮影対象は近江八幡左義長まつり

毎年一泊撮影会は1月例会までに決まらず、頭の痛い課題でしたが、今年、玉井さんのお骨折りもあり、少々急な話ですが、3月15日、16日に行われる近江八幡の日牟礼八幡宮の左義長にポイントを絞りました。暮れの27日関、河合、進藤の3氏が玉井さん案内のにてロケハンをしてきました。別紙ご案内通りに実施しますので1月例会に申込んで下さい。例会欠席の方はお電話で関氏、又は会長迄申込みをお願いします。

1 例会は第2月曜(祭日)13時より開催

1月例会は第2月曜(祭日)14日13時より、難波市民学習センターで開催、引き続いて総会を行います。楽しい幕開けといたしましょう。新年会は17時過ぎより5階のスーパードライ難波にて開催、出欠表示のまだの方は至急ご連絡を。参加費5,000円会場にて受付。

全国コンテスト受賞

おめでとうございます

◆第21回ひたち映像コンクール

優秀賞「ネパール紀行 貧しくとも」

西村光雄さん

全例会出席者は11氏

例会を支えるのはとにかく会員さんにまずは出席して頂くことが基本。それでも1年12ヶ月、第4土曜の夜とは凡そ決っているものの、何かと支障を来たすことがあるものです。他をやりくりしても例会を優先して出席して頂く方に敬意を表します。

◆全例会出席者：江村、奥、黒田、合原、錦、華岡、藤原、増池、森、安居、吉岡
以上11氏

◆11回出席者：有村、井上、岡本、紙本、河合、進藤、関、宮崎
以上8氏

全例会作品出品者は4氏

◆全例会作品出品者：江村、奥、増池の3氏に加え作者欠席作品出品、井上氏
以上4氏

◆11本出品者：有村氏
以上1氏

以上の方々には、例会運営に多大なる貢献をして頂いたことに対し、総会の席にて粗品（テープ）を進呈します。

年度賞は総会にて発表

■第22回日本を縦断する映像発表会

1月27日（第5日曜日）12時より、大阪市立中央図書館にて開催。今回はOMCから有村、前田、安居の3氏が出品。

先月号で日付を1月22日と書きましたが、1月27日（日曜日）に訂正します。

12月例会レポート

ついに平成19年最後の例会になりました。今年はハイビジョンが一大ブレイクした年でありました。アマチュア映像世界初の10000ルーメンの大映写会、例会での新型フルスペックプロジェクターの登場など、黒田会員のご好意で非常に進展しました。他所のクラブに負けない映写環境が整ったので、来年は作品内容のより一層の向上を期待したいものと思います。

今月例会の司会は安居さん、書記、前田

さん、受付兼照明係、奥さんと進藤さん。機材担当はいつものご三方、河合、江村、増池の3氏にて会を進行しました。今日も何故か作品が12本と少なかったので、司会の安居さんも一作一作、作者のコメントを聞き司会者として寸評などを述べられ、先月に続いてゆっくりした例会になりました。出席者は見学者2名を加えて31名の多くなりました。

■出席者：有村、井上、岩井、江藤、江村、岡本、奥、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、西井、関、田中、錦、西村、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森、森下、山本、安居、吉岡、渡辺、見学者2名（岸和田の上田、宮井）以上の31氏（敬称略）。

■上映作品（今月の講評は広報前田です）

1. パプアの密林（もり）で（DV）

合原一夫さん 13分50秒

8月例会で発表された「鎮魂の島は今」と舞台は同じパプアニューギニアですが、今回作品は現地の人々の、ツアー客を歓迎する踊りを中心に描いた紀行作品です。コーヒー、さとうキビ栽培などをイントロに描いて今のニューギニアの現状を紹介し、続いて訪問した部族の歓迎の踊りに入っていきます。骸骨のショーは非常に珍しく興味深く拝見しました。ツアーの途中で突然のフルーツの差し入れと、折鶴のお返しなどハプニングもあって面白かったです。島の部族達は、観光客をもてなすことで現金収入を得ることを期待しているようで、僅か10名のツアー客に色んな部族が珍しい踊りを披露してくれて有意義な探訪紀行であったことが判りました。作者は”未知なる国を訪れて暖かく接してくれたのが嬉しかった”、と結んでいます。素晴らしい作品です。地名、部族名をテロップで流してもらったら、もっと判り易く親しみを持たせたものと思いました。

2. 宇治にて（W）

増池 茂さん 8分35秒

宇治へ行ってカメラの撮影会に便乗してなんとなく写してきた、とって持参されました。12月2日の撮影だそうですが、紅葉も快晴の空の下で実に綺麗に撮れています。1カット1カットは丁寧に撮られているので引き込まれるように鑑賞できまし

た。宇治といえば平等院をすぐに連想しますが、8ミリフィルム時代に撮った興聖寺を訪ねて撮られています。なかなか大きなお寺で、庭園および宇治川から境内に通じる琴坂は京都府指定の名勝だそうです。作品全体に流れる落ち着いたオカリナのBGMと相まって、しっとりとした秋の情感を感じさせてくれました。気になったのは、大勢の釣り人情景が2回に亘って描かれますが、一つにまとめて欲しかったのと、魚籠のアップに魚の名前をテロップで入れて欲しかったと思いました。夕方の情景で終わって、夜のシーンは要らないと感じました。

3. 晩秋の当尾の里 (HDV)

奥 宏さん 6分41秒

当尾の里を訪れて、浄瑠璃寺、岩船寺、それに石仏を散策されました。歴史的説明を詳しく語っておりお寺や石仏の由来はよく判ります。しかし、訪問された作者の印象、受けた感動などが語られず、観光ビデオになったのが惜しまれます。もっとご自身の感情を語ってくれたら、立派な紀行作品になったことと思います。シンセサイザーのBGMは良く合っており、当尾の里の情感が醸しだされていました。

4. チョットだけ上海 (HDV)

有村 博さん 6分22秒

四川省成都を訪問する途中に、上海空港へ着陸して乗り換えまでの2時間半の短い間に、大上海の超高層ビル街を訪問するというオプションツアーだそうです。往復リニアモーターカーに乗車されていますが、431Km/hの超高速の列車のすれ違いシーンは圧巻でした。ほんの一瞬の出来事です。よく撮られたと感心しました。建設中の森ビルも凄いし、タイトルも面白いと司会者のコメントでした。

5. 音と光と (HDV)

江村一郎さん 6分20秒

大阪冬の風物詩、中之島と道頓堀の光と音の祭典を江村さんらしいカットと編集で見せてくれます。しかし道頓堀の光のイベントは今ではなくなったそうで、これは貴重な記録になっています。ほとんどが手持ちのアップのショートカットで繋ぎ合わせて見せる手法は江村さんの独断場で、誰も

真似のは出来ない鋭い感覚が必要だと思います。せからしいアップの連続の中でラストを迎えたと思ったら、光る木と月とのエンディングになりましたが、これは必要だったのか、と司会者も疑問を呈しましたが、作者は人工の光の後に自然の光を入れたかったから、との説明がありました。そうであれば、BGMを変えずにそのまま続けて終わったら、意図を汲み取れたかも知れないと感じました。

6. 西宮まつり渡御祭 (HDV)

吉岡貞夫さん 10分00秒

西宮神社のお祭り、渡御祭のご神体と同じ船に乗って撮影された貴重な記録作品です。西宮神社に顔が良く作者ならではの映像です。何でも400年ぶりに再興した行事で今年は8回目という古い歴史があるそうです。御前浜沖で海の平安を願う「かざまつり」で神主さんが祝詞を上げるシーンは御座舟同乗を許されたからこそ撮れた重要シーンです。クライマックスとして淡路人形操り一座の舞の奉納があります。さすがに吉岡さんはお祭りを撮ったら的確に撮影、構成、編集を決めており素晴らしい記録作品に仕上がっています。

7. 島田の帯祭 (HDV)

紙本 勝さん 12分00秒

静岡県の島田に伝わる珍しい帯祭りの記録作品です。今年の10月中旬に行われたそうですが、毎年ではなく3年に1度の開催だそうです。大奴が着ける2本の丸帯および支持の刀を模した木材等、15Kgの重さの飾りを腰の両側に結び付けて跳ねるように練り歩きます。重たいのでなかなかの重労働と見受けました。作者の紙本さんも祭りを撮ったら比類ない実力をお持ちで、よくまあ奇祭を発見してこられ、見事に作品にされる腕前に感服します。撮影技術も的確で、足元のアップ、観客のアップも必要所に散りばめて観客を飽きさせずに最後まで引っ張っていく編集技術は素晴らしいです。

8. 青森ねぶた (HDV)

上総修一郎さん 9分40秒

青森ねぶたは全国区の超有名なお祭り、「ねぶた」の映像はTVでもよく放映されます。先月持参された作品の改作とい

うことで再度持参されました。筆者は先月休みましましたので比較は出来ません。なんでもお孫さん(女性)が踊り子”はねと”姿になって出場するそうで、その撮影も兼ねて行かれたようです。迫力ある大型ねぶたのオンパレード、笛と大太鼓あふれるばかりのリズム感、見事に表現されています。上総さんのここ数年間の発表作品の中で一番優れたものと思います。かつて作者は切れ味鋭いカット繋ぎと独特のナレーションが素晴らしかったのですが、それらが復活したとお見受けしました。久々にいい作品を見せていただきました。しかし、途中のパレードでBGMがSEに被って聞こえませんが、BGMは要りませんね。ラストではBGMだけを聞かせSEをカットしていましたが、これは良かったと思います。

9. 晩秋のまほろば (HDV)

進藤信男さん 6分35秒

「まほろば」という言葉は素晴らしい響きを持っています。もうひとつ意味がよく判らないので、フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』で引いてみたら、”まほろばとは、「素晴らしい場所」「住みやすい場所」という意味の日本の古語。「まほらば」「まほらま」とも言う。”とありました。しかし、進藤さんは”まほろばとは山や丘に囲まれた中央部の優れた所のことである。”と語っておられます。まあ、よく似た意味なのですが、実に心地よく聞こえる日本語の一つです。撮影場所は湖北木ノ本町付近の寺院及びその跡で紅葉が織り成す見事な絨毯に驚きました。湖北にも素晴らしい紅葉の名所があるのですね。湖東の永源寺や湖東三山しか頭に浮かばず、新しい知識を得ました。

10. 日本丸、海王丸神戸寄航 (HDV)

井上勝彦さん 10分14秒

この11月神戸港開港140周年を祈念して帆船、日本丸、海王丸が寄航し、その美しい姿を存分に見せてくれました。この作品はその時の記録です。「名曲アルバム」風に作りました、と作者より説明がありました。作者お得意のグーグル映像から入ってヘリコプターの映像に切り替わりますが、ここは実に見事に違和感無く切り替わります。映像は二隻の優美な姿をあます所

なく撮ってこられ最後まで楽しんで見せていただけました。ノンナレのテロップだけの纏め方が成功したと思いました。BGMはメンデルスゾーンのイタリア交響曲第4番イ長調第一楽章ですが、曲名をテロップに流す必要がありますね。

11. サマルカンド (HDV)

山本正夢さん 9分40秒

サマルカンドとは良く聞く地名ですが、この作品を見るまでよく判りませんでした。ウズベキスタン国の都市の一つだそうで、ネットで見ると、ティムールの子、ウルグ・ベクの時代に天文台が築かれて、その当時の建物を含めて文化交差点としてユネスコの世界遺産(文化遺産)になっている、とありました。山本さんは10月にはアラル海の作品を、今回はサマルカンドとツアーでは決して行かない珍しい映像を楽しませてくれます。何でもアラル海とサマルカンドとは500Kmも離れているそうです。山本作品は、光の使い方が非常にお上手でこの作品でも逆光の息を呑むようなカットが見られます。大変大きな都市で、古い遺跡と現在の建造物が同居しています。パズールに入って人々の活気ある情景に触れていいなと思いました。山本作品を楽しみにしている会員が多いのでこれからも期待しています。

12. 飛驒の匠 (HDV)

西村光雄さん 8分00秒

別のクラブの高山撮影会作品ですとって持参されました。大きなタイトルですので何を切り口にするのかなと思っていたら、やはり高山祭りの屋台でした。幅広いタイトルを8分の短編にまとめるのは非常に難しいと思いますが、さすがに西村さんは困難なテーマを要領よくそつなく纏めています。歴史に登場した万葉集から始まって時代時代の匠の技を紹介していきます。地味なテーマだけにクライマックスもなく淡々と進んでいきます。やはり惜しいと思ったのは現代の飛驒の匠の技、一刀彫をさらっと流したことです。見学者用の実演でも一刀彫を見せてもらえることが出来たら、作品に幅が出てもっと素晴らしいものになったのにと惜しまれました。